千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第10週 (3/6-3/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	10週	9週	8週	7週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	3/6-3/12 10週	2/27-3/5 9週	2/20-2/26 8週	2/13-2/19 7週	千葉県 2/27-3/5 9週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	1 0.06	3 0.17	14 0.10
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.11	2 0.11	2 0.11	23 0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		47 2.61	42 2.33	43 2.39	38 2.11	531 3.93
	感染性胃腸炎		100 5.56	95 5.28	113 6.28	126 7.00	697 5.16
	水痘		10 0.56	3 0.17	11 0.61	7 0.39	53 0.39
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00
	伝染性紅斑		0 0.00	1 0.06	1 0.06	3 0.17	2 0.01
	突発性発しん		11 0.61	9 0.50	8 0.44	7 0.39	44 0.33
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		6 0.33	4 0.22	2 0.11	3 0.17	27 0.20
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	↓	265 9.46	304 10.86	441 15.75	712 25.43	3,051 14.19
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.20	1 0.20	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	6 1.20	6 1.20	4 0.80	33 0.94
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	2 2.00	2 2.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（10件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	後天性免疫不全症候群	男性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の検出等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	40歳代	病原体の検出
結核	女性	60歳代	臨床診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	女性	80歳代	病理学的所見	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	40歳代	血清抗体の検出

・第10週は、　結核5件（50）、後天性免疫不全症候群1件（3）、侵襲性肺炎球菌感染症2件（11）、梅毒2件（10）の報告があった。

※ （）内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

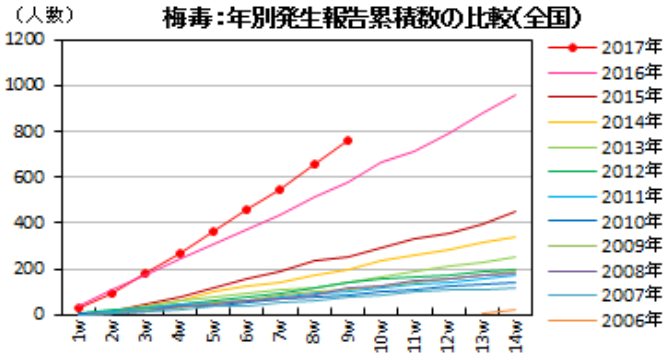
定点当たり報告数　第10週のコメント

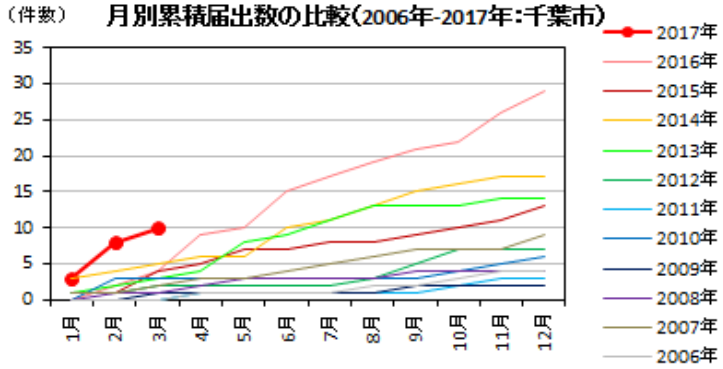
＜インフルエンザ＞前週より減少し9.46となり、流行発生警報終息基準値を下回った。過去10年の同時期と比べると少なめ。

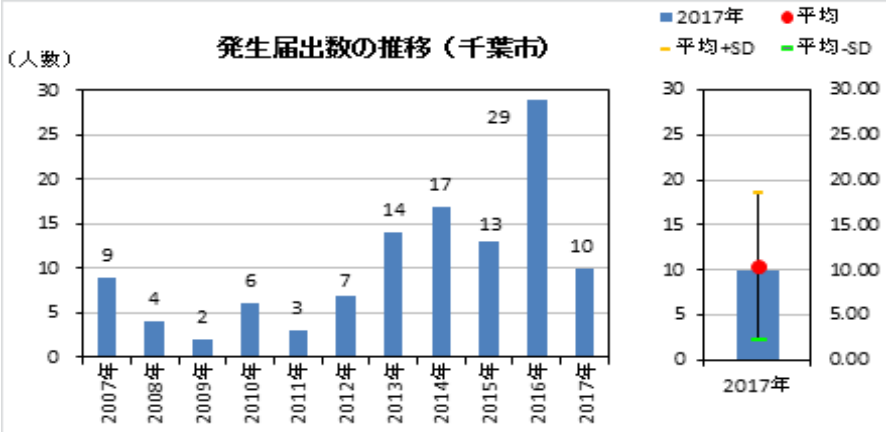
■ トピック ■

＜梅毒＞

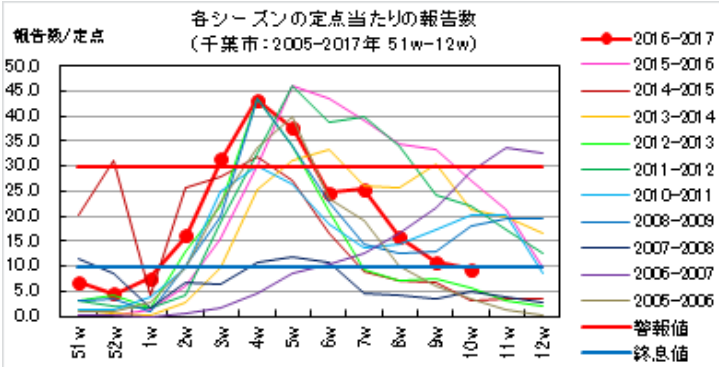
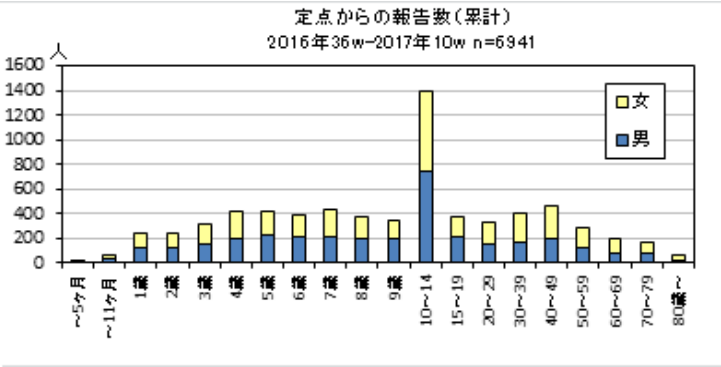
全国レベルの2017年第9週現在の発生届累積数は763件となり、過去9年の同じ時期に比べて最も多かった昨年を上回り最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国第8位となっています。千葉市では第10週に2件の発生届があり、2017年の発生届累積数は10件となり、同じ時期に過去10年と比べて最も多かった昨年を大きく上回っており、既に平均レベルに達しています。
性別では男性が40.0%（4名）、女性が60.0%（6名）で、年齢階級別では20歳代（50.0%：5名）が半数を占めており、次いで60歳代（20.0%：2名）が多くなっています。病型は、早期顕症梅毒Ⅰ期、早期顕症梅毒Ⅱ期、無症状病原体保有が各々30.0%を占めており、感染経路は性的接触が90.0%、再発が10.0%で、性的接触の内訳は性交が77.8%、性交及び経口が22.2%、異性間が88.9%、同性間が11.1%となっています。







＜インフルエンザ＞

全国レベルの2017年第9週は、前週より減少していますが、流行発生警報終息基準値（10.0/定点）は上回ったままとなっています。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、長崎県、石川県、沖縄県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2017年第10週は、前週より減少し9.46となり、流行発生警報終息基準値を下回りました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、若葉区（13.5/定点）で流行発生警報終息基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは3歳で最も多く発生報告がありました。この他、稲毛区（12.25/定点）及び中央区（10.2/定点）で流行発生警報終息基準値を上回っています。今シーズンである2016年第36週から2017年第10週までの累積報告数（n=6941）によると、性別では男性が49.4%（3426名）、女性が50.6%（3515名）で、一年代当たりの年齢階級別では7歳（6.3%：434名）、5歳（6.1%：424名）、4歳（6.0%：413名）の順に多くなっており、20歳未満は全体の72.4%、10歳未満は全体の47.1%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。